

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道 気付
 (Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

大 図 研 伝 言 板 開 設 !!

大図研京都支部報編集部では現場に役立つ情報を提供し、会員の皆さんの要望も紙面に反映させようと伝言板の開設を企画しました。「こんな時あなたの図書館ではどのように処理していますか?」と言った日常業務での悩みの解決法、「アルバイトを募集しているが、誰かいい人を知りませんか?」といった求人求職情報、「〇〇雑誌を廃棄するが、ほしい人はいませんか?」等のあげます・ください情報、統計的データを収集したいことがら etc...。その他なんでも身近な悩みは編集部にお寄せください。「~についてよくご存じの方は××大学図書館△△までご連絡を」といった呼びかけなども大歓迎。また寄せられた回答などでみんなが読んでためになるものがあれば、紙面でもどんどん紹介していきたいと思っています。あなたの悩みは、きっと大図研のネットワークが解決します。

(伝言の送り先)

京都橘女子大学図書館 小林倫道 ☎(075)574-4118 FAX(075)574-4124
 京都学園大学図書館 大館和郎 ☎(07712)2-2001 FAX(07712)4-8150

★またはもよりの支部委員まで

目次	京大班からの報告(那須たみ子) 2 頁
	富士山の絵の歴史(小林倫道) 3 頁
	なぜ今『情報管理』なのか(竹村心) 4 頁

京大班からの報告

京都大学理学部地質学鉱物学教室 那須たみ子

京都大学では数多くの図書館(室)があり、約100名のパート職員をふくめ約280名の図書館職員が働いています。図書館(室)の規模や内容も多岐にわたっていますが、現在、全体の約30%にあたる80名たらずが大図研の会員になっています。この会員の中から京都支部委員として6めいが選出されています。

今年度、京大班では月1回の世話人会と月例会を企画していくことを努力目標にしています。世話人会では、各部局の世話役(9名)を中心に全国および京都支部からの報告、各職場の状況、種々の情報交換、京大班の今後の課題についての議論を行い、会誌の配布や大図研の行事、事業などの広報も行います。

第1会の世話人会では、崩れていた世話人会を立て直すこと、日常の業務に追われ自らの仕事を見つめ直す余裕のない現状を踏まえて、少しずつでも触発され、考える機会を持つ月例会を企画していくことが話し合われました。

月例会の企画案として、

1. 現場に密着した問題(コンピューター化など)についての学習会、研修会の企画
2. 各図書館(室)の現状、課題、自己評価についての交流
3. 図書館にかかわる時事問題についての学習会
4. 図書館にかかわる催し、展示についての見学会および研修の企画
5. 各研修会、見学会、大図研大学等に参加した報告会の企画
6. 懇親会、懇談会などで会員のコミュニケーションをはかる

などの希望が出されました。

これにさきがけた企画として、京大班では昨年10月に「新ILISの機能と京都大学の図書館システムの課題」と題して第1回月例会を開き、12月には「ビギナーズUNIX」についてのビデオ鑑賞会を2回連続で企画しました。

数年来続いているグループ研究は、索引研究グループが現在5名が参加してつづけられています。人文・社会科学系で実務に使えるような相関索引の作成が意図されて作業がすすめられており、かなり進捗しているようです。

京都大学でも頻繁な人事異動や定員削減で現場はますます厳しくなっています。会員1人1人の要求、学習意欲をどういう形で実現できるか、京大班の今後の課題です。

今後ともよろしく。

富士山の絵の歴史



松の内も明けやらぬ1月9日(土)、青丹よし寧楽の都で今年の大図研行事が幕を明けました。このたびの演題は正月にこれ程縁起の佳いテーマはない「富士山の絵の歴史」。講師は大和文華館次長の成瀬不二雄先生。名は体を表すと言われますが、お話しぶりは富士山にかける情熱のひしひしと伝わってくるようでした。スライドをとり混ぜた説明は予備知識を全く持ちあわせない者にも非常にわかりやすく、つつい絵画の世界に「トリップ」してしまいました。富士山の絵の歴史の変遷のあらまは大体次の通り。

ほとんど唯一、絵画の対象となり得たという点で、富士山は日本の絵画史上特異な存在でした。しかしその富士山でさえ、平安以前に描かれたもので現在に伝わるものはたった一点を数えるのみ。古代、山は何より信仰の対象で、絵画に描くのはどうもタブー視されていたらしい。ようやく富士山が絵画の中に登場するのは、絵画に先行して成立していた文学作品を絵画で表現しようというムーブメントが起こって以後のことで、仏教説話の絵画化や竹取、伊勢に代表される初期の物語絵などがその起源だと考えられています。富士山の絵はその後、「三峰型」(上図)に代表される「絵手本」重視の規格化・定形化の時代に入ってしまう、これが室町～江戸時代まで続く。江戸も後期になって、近代の幕開けと共に写実的な絵画や自由な表現が一般化し、ここに富士山を一度も手懸けぬ画家はいない、まさに「百富士」の時代が開いた、という訳です。

お話の中で一番興味深いトピックは絵画の「定形化」というテーマでしょう。写本という作業が常識的習慣だった時代、絵画でも同様にオリジナル作者のデザインが最高に尊重されたことは想像に難くありません。表現的には全く面白みがなくても、当時はそれが当たり前だったのです。そういった「規格」は時代の流れとともに打破られていきます。しかし、それまでの一見停滞とも思えるような経験が、一方で日本人の意識の上に与えた影響も看過できないでしょう。きわめて保守的なようで、実は芸術や哲学を「道」と呼べるまでに昇華させてきた文化的土壌は、この規格化・停滞時代とおそらく無縁ではないでしょうから。

「定形化」と「創造」。まったく唐突ですが、足許の図書館業務になぞらえてみても興味深いテーマであります。

もうひとつの感想。講師の絵画の検証から現地での考証に及ぶ地道な研究が、ただそれだけでどうということはないけれども、実は、絵画史、文化史、人類の歴史を解明するまさに「裾野」の研究になっていることを肌と感じました。この様なお話を年頭にうかがって、アカデミックな気分浸れたことを好運に思います。

講演終了後、講師もまじえて恒例の懇親会がありました。京都に負けない位の「鰻の寝床」の座敷でしたが、かえってごちんまりとまとまり、頭の前から尻尾の先まで終始にぎやかでした。お骨折りだった奈良支部の皆さんに厚く感謝とお礼を申し上げます。

なぜ、今、『情報管理論』なのか。

—第2期大図研大学開校準備すすむ—

あなたは『情報管理論』と言えば何をイメージしますか。

007かCIAか。

そんなスパイ組織の情報操作を思い浮かべる人がいるかもしれません。

あなたが図書館員ならば、梅棹忠夫氏が岩波書店から出版した本のタイトルを思い出すかもしれません。それほどこの言葉はあまりなじみのない言葉であり、無味乾燥な言葉の響きさえあるようです。

しかし、この言葉が、例えば、索引、抄録、情報検索、そして、図書館システム、データベース、ニューメディアを含んだ言葉だとなると、これからの大学図書館を読むキーワードとなってしまう程の言葉でさえあります。

ところが、残念ながら、これまでは多くの場合、日本の図書館学教育においては、これらの言葉がバラバラに教授され、総合的統一的に教えられて来ませんでした。

たとえば、私たちは「情報」をデータベースに入力するのは「人間」であり、その「情報」の「質」を決定するのはその「人間」であることが、ともすると忘れがちではなかったでしょうか。

また、私たち図書館員は「図書館員はデータベースを検索するだけで、情報の仲介者にすぎない」と言って、提供者の責任を放棄していなかったでしょうか。さらに、学生や大学院生、境界領域を研究しなければならない研究者にとっては、ますます必要な情報を手に入れることが困難になっています。このような時、大学図書館員の社会的責任はそれでいいのでしょうか。

あなたは、『情報管理論』が「情報化社会の維持発展のために、新しい情報の知識・技術の習得は必要であるが、人間性の尊重と情報処理能力の調和を基盤とした内容となるよう」なものではなくてはならないとする図書館学教育研究グループがあることをご存じですか。

この研究グループの研究者の協力を得て、実習も取り入れた、第2期大図研大学の開校準備が始まりました。期待してください。人間味あふれ、総合的な『情報管理論』を開講します。